

意見伺い (JD)

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

注2

名古屋大学大学院 生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻

【意見伺い (JD)】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人東海国立大学機構
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局 (課) 名 経営企画部経営企画課

職名・氏名 課長・^{ウスバ}薄葉 ^{ヒロキ}拓樹

電話番号 052-789-5698

(夜間) 同上

e-mail sougoukikakusitu1@adm.nagoya-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

大学院生命農学研究科

＜名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 授業科目の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	・・・・・・・・・・・・・・・・	12
4. 既設大学等の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
5. 教員組織の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	・・・・・・・・・・・・・・・・	45
7. その他全般的事項	・・・・・・・・・・・・・・・・	46

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人東海国立大学機構

【連携外国大学の設置者】 オーストラリア国西オーストラリア州

(2) 大学名

名古屋大学大学院

【連携外国大学の名称】

The University of Western Australia

(3) 調査対象大学等の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

【連携外国大学の本部の位置】

35 Stirling Highway Perth WA 6009 Australia

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長 学長	(マツオ セイイチ) 松尾 清一 (平成27年4月)		変更理由：大学総括理事を置いたため 変更年月日：令和4年4月1日 (4)
大学総括理事		(スギヤマ ナオシ) 杉山 直 (令和4年4月)	変更理由：新規就任のため 変更年月日：令和4年4月1日 (4)
研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成31年4月)		
副研究科長	(オジカ マコト) 小鹿 一 (平成31年4月)		
副研究科長	(タニグチ ミツタカ) 谷口 光隆 (平成31年4月)		
副研究科長	(ヤマウチ アキラ) 山内 章 (平成31年4月)	(フクシマ カズヒコ) 福島 和彦 (令和3年4月)	変更理由：任期満了のため 変更年月日：令和3年4月1日 (3)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
 令和4年度に報告する内容 → (4)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
生命農学研究科 <small>名古屋大学・西オーストラリア大学</small> 国際連携生命農学専攻 (博士後期課程) 博士(農学)	農学関係	3 年	<42> 1 人	年次 - 人	<126> 3 人	新規入学者を募集中	基礎となる学部等 農学関係 連携外国大学との 合計入学定員 2人 合計収容定員 6人

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ < >内の数字は、母体となる学部等の全体の入学定員を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学			
A 入学定員	- (-) [-]	- (-) [-]	1 (-) [-]	- (-) [-]	1 (-) [-]	- (-) [-]	1 (-) [-]	- (-) [-]	1 (-) [-]	- (-) [-]	0.50倍	一倍	平成30年12月に合意した協定書を補正する「協定書補正覚書」を平成31年3月に署名。各大学の通常課程に合わせて名古屋大学を主大学とする学生は10月入学を追加、また西オーストラリア大学を主大学とする学生は1月12月を除く毎月入学を可とする旨を合意した。 ※以下、西オーストラリア大学における入学者の状況 令和元年度 その他の学期1名
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]			
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]			
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]			
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]	0 (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	-		2.00		0		0		0				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
(例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	2 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	平成31年4月 学生2名が本専攻へ入学（元） 平成31年4月 本学生命農学研究科の学生1名が本専攻2年次へ転専攻（元） ※以下、西オーストラリア大学を主たる大学とする学生の状況 令和元年5月 学生1名が本専攻へ入学（元）
2年次	/		1 [-] (-)	0 [-] (-)	2 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	
3年次	/		/		1 [-] (-)	0 [-] (-)	3 [-] (1)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	
4年次	/		/		/		/		/		
計	- [-] (-)	- [-] (-)	3 [-] (-)	3 [-] (-)	3 [-] (-)	3 [-] (1)	3 [-] (1)	3 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
(例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	0人	0人	平成30年度	-人	-人	
令和元年度	3人	0人	平成30年度	-人	-人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	3人	0人	平成30年度	-人	-人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
令和3年度	3人	0人	平成30年度	-人	-人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
令和4年度	0人	0人	平成30年度	-人	-人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		0人				

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	博士論文研究ⅠA		1通	名古屋大学	6			40	45	17	23	0	2	
	博士論文研究ⅡA		2通	名古屋大学	6			40	45	17	23	0	2	
	博士論文研究ⅢA		3通	名古屋大学	6			40	45	17	23	0	2	
	特別講義A(生命農学本論)		1-3前	名古屋大学		1		11	1	0	0	0	2	
	特別講義A(研究リテラシー)		1-3後	名古屋大学		1		6	1	0	0	0		
	特別講義A(生命農学基礎講義)		1-3前	名古屋大学		1		0	2	4	1	0		
	特別講義A(テータイエンス1)		1-3通	名古屋大学		1		0	1	0	0	0		
	特別講義A(テータイエンス2)		1-3通	名古屋大学		1		0	0	2	0	0		
	特別講義A(テータイエンス3)		1-3通	名古屋大学		1		0	0	1	0	0		
	小計(9科目)	-				18	6	0	40	45	17	23	0	2
	博士論文研究ⅠB		1通	西オーストラリア大学	6			16	7	8	1	0		
	博士論文研究ⅡB		2通	西オーストラリア大学	6			16	7	8	1	0		
	博士論文研究ⅢB		3通	西オーストラリア大学	6			16	7	8	1	0		
	特別講義B(自然科学テータイエンス・分析特論)		1-3通	西オーストラリア大学		2		0	0	1	0	0		
	特別講義B(サイエンスプレゼンテーションセミナー)		1-3通	西オーストラリア大学		2		0	0	1	0	0		
特別講義B(アカデミックライティングワークショップ)		1-3通	西オーストラリア大学		2		0	0	1	0	0			
小計(6科目)	-				18	6	0	16	7	8	1	0		
(研究指導)			1-3通	名古屋大学西オーストラリア大学				56	52	25	24	0	2	
合計(15科目)	-				18	6	0	56	52	25	24	0	2	
卒業要件及び履修方法														
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究I、II、III、副大学開講科目から博士論文研究IIとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上(そのうち副大学で少なくとも2単位以上)、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。														

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	博士論文研究ⅠA		1通	名古屋大学	6			40	41	14	24		2	
	博士論文研究ⅡA		2通	名古屋大学	6			40	41	14	24		2	
	博士論文研究ⅢA		3通	名古屋大学	6			40	41	14	24		2	
	特別講義A(生命農学本論)		1-3前	名古屋大学		1		4	3				2	
	特別講義A(研究リテラシー)		1-3後	名古屋大学		1		4	0					
	特別講義A(生命農学基礎講義)		1-3前	名古屋大学		1			3	2	0			
	特別講義A(テータイエンス1)		1-3通	名古屋大学		1		1	0					
	特別講義A(テータイエンス2)		1-3通	名古屋大学		1			1	0				
	特別講義A(テータイエンス3)		1-3通	名古屋大学		1			1	0				
	小計(9科目)	-				18	6	0	40	41	14	24	0	2
	博士論文研究ⅠB(未開講)		1通	西オーストラリア大学	6			19	9	4	0			
	博士論文研究ⅡB(未開講)		2通	西オーストラリア大学	6			19	9	4	0			
	博士論文研究ⅢB		3通	西オーストラリア大学	6			19	9	4	0			
	特別講義B(自然科学テータイエンス・分析特論)		1-3通	西オーストラリア大学		2			1	0				
	特別講義B(サイエンスプレゼンテーションセミナー)		1-3通	西オーストラリア大学		2			1	0				
特別講義B(アカデミックライティングワークショップ)		1-3通	西オーストラリア大学		2			1	0					
小計(6科目)	-				18	6	0	19	9	4	0	0		
(研究指導)			1-3通	名古屋大学西オーストラリア大学				59	50	18	24	0	2	
合計(15科目)	-							59	50	18	24	0	2	
卒業要件及び履修方法														
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究I、II、III、副大学開講科目から博士論文研究IIとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上(そのうち副大学で少なくとも2単位以上)、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。														

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	博士論文研究ⅠA		1通	名古屋大学	6			42	44	17	24		2
	博士論文研究ⅡA (未開講)		2通	名古屋大学	6			42	44	17	24		2
	博士論文研究ⅢA (未開講)		3通	名古屋大学	6			42	44	17	24		2
	特別講義A(生命農学本論)		1-3前	名古屋大学		1		5	3				2
	特別講義A(研究リテラシー)		1-3後	名古屋大学		1		4	1				
	特別講義A(生命農学基礎講義)		1-3前	名古屋大学		1			2	3			
	特別講義A(テータイエンス1)		1-3通	名古屋大学		1			1				
	特別講義A(テータイエンス2)		1-3通	名古屋大学		1				2			
	特別講義A(テータイエンス3)		1-3通	名古屋大学		1				1			
	小計(9科目)	-			18	6	0	42	44	17	24	0	2
	博士論文研究ⅠB		1通	西オーストラリア大学	6			17	8	7			
	博士論文研究ⅡB		2通	西オーストラリア大学	6			17	8	7			
	博士論文研究ⅢB (未開講)		3通	西オーストラリア大学	6			17	8	7			
	特別講義B(自然科学テータイメント・分析特論)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1			
	特別講義B(サイエンスプレゼンテーションセミナー)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1			
特別講義B(アカデミックライティングワークショップ)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1				
小計(6科目)	-			18	6	0	17	8	7	0	0		
(研究指導)			1-3通	名古屋大学西オーストラリア大学				59	52	24	24		2
合計(15科目)	-			18	6	0	59	52	24	24	0	2	
卒業要件及び履修方法													
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究Ⅰ、Ⅲ、副大学開講科目から博士論文研究Ⅱとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上(そのうち副大学で少なくとも2単位以上)、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。													

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	博士論文研究ⅠA (未開講)		1通	名古屋大学	6			41	45	17	23		2
	博士論文研究ⅡA		2通	名古屋大学	6			41	45	17	23		2
	博士論文研究ⅢA		3通	名古屋大学	6			41	45	17	23		2
	特別講義A(生命農学本論)		1-3前	名古屋大学		1		5	3				2
	特別講義A(研究リテラシー)		1-3後	名古屋大学		1		4	1				
	特別講義A(生命農学基礎講義)		1-3前	名古屋大学		1			2	3	0		
	特別講義A(テータイエンス1)		1-3通	名古屋大学		1		1	0				
	特別講義A(テータイエンス2)		1-3通	名古屋大学		1				2			
	特別講義A(テータイエンス3)		1-3通	名古屋大学		1				1			
	小計(9科目)	-			18	6	0	41	45	17	23	0	2
	博士論文研究ⅠB (未開講)		1通	西オーストラリア大学	6			20	5	7	0		
	博士論文研究ⅡB		2通	西オーストラリア大学	6			20	5	7	0		
	博士論文研究ⅢB (未開講)		3通	西オーストラリア大学	6			20	5	7	0		
	特別講義B(自然科学テータイメント・分析特論)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1			
	特別講義B(サイエンスプレゼンテーションセミナー)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1			
特別講義B(アカデミックライティングワークショップ)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1				
小計(6科目)	-			18	6	0	20	5	7	0	0		
(研究指導)			1-3通	名古屋大学西オーストラリア大学				61	50	24	23		2
合計(15科目)	-			18	6	0	61	50	24	23	0	2	
卒業要件及び履修方法													
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究Ⅰ、Ⅲ、副大学開講科目から博士論文研究Ⅱとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上(そのうち副大学で少なくとも2単位以上)、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。													

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	博士論文研究ⅠA(未開講)		1通	名古屋大学	6			41	44	16	24		2
	博士論文研究ⅡA(未開講)		2通	名古屋大学	6			41	44	16	24		2
	博士論文研究ⅢA		3通	名古屋大学	6			41	44	16	24		2
	特別講義A(生命農学本論)		1-3前	名古屋大学		1		4	3				2
	特別講義A(研究リターン)		1-3後	名古屋大学		1		4	1				
	特別講義A(生命農学基礎講義)		1-3前	名古屋大学		1		3	2	0			
	特別講義A(テータイエンス1)		1-3通	名古屋大学		1		1	0				
	特別講義A(テータイエンス2)		1-3通	名古屋大学		1		1	1				
	特別講義A(テータイエンス3)		1-3通	名古屋大学		1		1	0				
	小計(9科目)	-			18	6	0	41	44	16	24	0	2
	博士論文研究ⅠB(未開講)		1通	西オーストラリア大学	6			19	7	5	0		
	博士論文研究ⅡB(未開講)		2通	西オーストラリア大学	6			19	7	5	0		
	博士論文研究ⅢB		3通	西オーストラリア大学	6			19	7	5	0		
	特別講義B(自然科学テータイメント・分析特論)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1			
	特別講義B(サイエンスプレゼンテーションセミナー)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1			
特別講義B(アカデミックライティングワークショップ)		1-3通	西オーストラリア大学		2				1				
小計(6科目)	-	-		18	6	0	19	7	5	0	0		
(研究指導)			1-3通	名古屋大学西オーストラリア大学				59	52	19	24	0	2
合計(15科目)	-			18	6	0	59	52	19	24	0	2	

卒業要件及び履修方法

原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究I、III、副大学開講科目から博士論文研究IIとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上(そのうち副大学で少なくとも2単位以上)、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

名古屋大学
・退職により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授1減、准教授1減、講師1減、助教2減
・退職により「生命農学本論」「研究リテラシー」教授1減
・退職により「生命農学基礎講義」助教1減
・採用により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授1増、准教授2増、助教4増
・昇格により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授2増、講師1増、准教授2減、助教1減
西オーストラリア大学
・昇格により「博士論文研究ⅠB～ⅢB」教授1増、准教授2増、講師1増、准教授1減、講師2減、助教1減

【令和2年度】

名古屋大学
・採用により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」助教4増、准教授1増
・退職により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授3減、講師1減、助教2減
・昇格により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」助教3減、准教授2減、教授2増、准教授2増、講師1増
西オーストラリア大学
・昇格により「博士論文研究ⅠB～ⅢB」准教授3減、教授3増

【令和3年度】

名古屋大学
・採用により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授2増、准教授2増、助教5増
・退職により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授5減、准教授2減、講師2減、助教1減
・退職により「生命農学本論」教授1減
・昇格により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授3増、准教授2増及び3減、講師3増及び2減、助教3減
・昇格により「データサイエンス2および3」講師1減、准教授1増
・昇格により「生命農学基礎講義」准教授1増、講師1減
西オーストラリア大学
・退職により「博士論文研究ⅠB～ⅢB」教授1減
・昇格により「博士論文研究ⅠB～ⅢB」講師2減、准教授2増

【令和4年度】

名古屋大学
・採用により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授1増、准教授1増
・退職により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授3減、准教授3減、講師2減
・昇格により「博士論文研究ⅠA～ⅢA」教授1増、准教授1減
・退職により「研究リテラシー」准教授1減
・退職により「データサイエンス2」講師1減
西オーストラリア大学
・昇格により「博士論文研究ⅠB～ⅢB」「自然科学データマネジメント・分析特論」「サイエンスレベントセッションセミナー」「アカデミックライティングワークショップ」准教授1増、講師1減
・就任により「博士論文研究ⅠB～ⅢB」准教授1増

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
名古屋大学	9 科目	0 科目	0 科目	9 科目	9 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	9 科目 [0]	
西オーストラリア大学	6 科目	0 科目	0 科目	6 科目	6 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	6 科目 [0]	
共同開設科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	名古屋大学						
2	西オーストラリア大学						
3	共同開設科目						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	名古屋大学						
2	西オーストラリア大学						
3	共同開設科目						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{15} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	663,614 628,131㎡	0㎡	0㎡	663,614 628,131㎡			
	運動場用地	90,010 89,165 105,775㎡	0㎡	0㎡	90,010 89,165 105,775㎡			
	小 計	753,624 752,779 733,906㎡	0㎡	0㎡	753,624 752,779 733,906㎡			
	そ の 他	2,424,411 2,425,466 2,450,356 2,507,320㎡	0㎡	0㎡	2,424,411 2,425,466 2,450,356 2,507,320㎡			
	合 計	3,178,035 3,178,245 3,184,262 3,241,226㎡	0㎡	0㎡	3,178,035 3,178,245 3,184,262 3,241,226㎡			
(2) 校舎	専 用	497,125 463,980 590,883㎡ (497,125 463,980 590,883㎡)	共 用 (0㎡)	共用する他の学校等の専用 (0㎡)	計 497,125 463,980 590,883㎡ (497,125 463,980 590,883㎡)	大学全体		
	講義室	246 248 235 252室	演習室 87 89 243 232室	実験実習室 1,314 1,225 1,687 1,680室	情報処理学習施設 27 25 (補助職員 1人)		語学学習施設 10 14室 (補助職員 0人)	
(3) 教室等	新設学部等の名称		室 数			大学全体		
(4) 専任教員研究室	生命農学研究科名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻		106 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	保有図書等整理のため (元) 保有図書等整理のため (2) 保有図書等整理のため (3) 保有図書等整理のため (4)
	生命農学研究科名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻	110,852 [50,831] 112,218 [50,997] (113,773 51,523) (113,456 51,430) (113,432 51,570)	4,325 [1,354] 4,378 [1,385] (4,395 [1,379]) (4,387 [1,358]) (4,396 [1,391]) (4,384 [1,385]) (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] 20,848 [20,776] (22,660 [22,588]) (21,486 [21,416]) (21,081 [21,009]) (20,678 [20,608]) (20,776 [21,009])	116 115 (107) (119) (114) (115)	0 0 (0) (0)	0 0 (0) (0)	
	計	110,852 [50,831] 112,218 [50,997] (113,773 51,523) (113,456 51,430) (113,432 51,570)	4,325 [1,354] 4,378 [1,385] (4,395 [1,379]) (4,387 [1,358]) (4,396 [1,391]) (4,384 [1,385]) (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] 20,848 [20,776] (22,660 [22,588]) (21,486 [21,416]) (21,081 [21,009]) (20,678 [20,608]) (20,776 [21,009])	116 115 (107) (119) (114) (115)	0 0 (0) (0)	0 0 (0) (0)	
		110,852 [50,831] 112,218 [50,997] (113,773 51,523) (113,456 51,430) (113,432 51,570)	4,325 [1,354] 4,378 [1,385] (4,395 [1,379]) (4,387 [1,358]) (4,396 [1,391]) (4,384 [1,385]) (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] 20,848 [20,776] (22,660 [22,588]) (21,486 [21,416]) (21,081 [21,009]) (20,678 [20,608]) (20,776 [21,009])	116 115 (107) (119) (114) (115)	0 0 (0) (0)	0 0 (0) (0)	
(6) 図書館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	28,681 24,829㎡	2,040 2,173 2,175 2,195 2,031席		3,104,141 3,158,000 3,140,500冊				
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	9,236 9,229㎡	弓道場、プール(25m×7コース)、陸上競技場(400mトラック)、テニスコート(11面)、野球場(1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場(各1か所)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	千円
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

※国際連携学科等に係る申請大学の状況を記載し、連携外国大学の状況は含めないでください。

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	岐阜大学						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
<学部>											
教育学部	4	220	—	940	学士(教育学)	1.05	1.06	—	昭和41	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
学校教育教員養成課程	4	220	—	940	学士(教育学)	1.05	1.06	—	平成10	同上	定員変更(▲30)
特別支援学校教員養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	—	—	平成19	同上	令和2年度学生募集停止
地域科学部	4	100	3年次10	420	学士(地域科学)	1.05	1.04	—	平成8	岐阜県岐阜市柳戸1番1	地域科学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
地域政策学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	—	—	—	平成18	同上	
地域文化学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	—	—	—	平成18	同上	
医学部	4・6	190	—	980	学士(医学または看護学)	1.00	1.00	—	昭和39	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医学科	6	110	—	660	学士(医学)	0.99	0.97	令和4	昭和39	同上	定員変更(25)
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.01	1.04	—	平成12	同上	令和2年度学生募集停止(3年次編入学)
工学部	4	510	3年次30	2,100	学士(工学)	1.03	1.03	—	昭和27	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
社会基盤工学科	4	60	3年次10	260	学士(工学)	1.03	1.00	—	平成14	同上	
機械工学科	4	130	3年次10	540	学士(工学)	1.04	1.02	—	平成25	同上	
化学・生命工学科	4	150	3年次2	604	学士(工学)	1.03	1.04	—	平成25	同上	
電気電子・情報工学科	4	170	3年次8	696	学士(工学)	1.02	1.04	—	平成25	同上	
応用生物科学部	4・6	190	3年次10	840	学士(応用生物科学)	1.05	1.07	—	平成16	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
応用生命科学課程	4	80	3年次5	330	学士(応用生物科学)	1.04	1.09	—	平成23	同上	
生産環境科学課程	4	80	3年次5	330	学士(応用生物科学)	1.07	1.06	—	平成16	同上	
共同獣医学科	6	30	—	180	学士(獣医学)	1.04	1.03	—	平成25	同上	
獣医学課程	6	—	—	—	学士(獣医学)	—	—	—	平成16	同上	平成25年度学生募集停止
社会システム経営学環	4	30	—	60	学士(経営学)	1.07	1.07	—	令和3	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和3年度新設
大学合計	—	1,240	3年次50	5,340							

大学の名称	岐阜大学大学院						学生募集停止学科数	8	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	3	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成7	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	—	—	25	教職修士(専門職)	—	—	—	平成20	同上	令和4年度学生募集停止
心理発達支援専攻 (修士課程)	2	—	—	10	修士(教育学)	—	—	—	平成20	同上	令和4年度学生募集停止
総合教科教育専攻 (修士課程)	2	—	—	34	修士(教育学)	—	—	—	平成25	同上	令和4年度学生募集停止
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	40	—	40	教職修士(専門職)	0.88	0.88	—	令和4	同上	令和4年度新設 専攻の設置
教育臨床心理学専攻 (修士課程)	2	5	—	5	修士(教育学)	1.2	1.2	—	令和4	同上	令和4年度新設 専攻の設置
地域科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成13	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
地域政策専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(地域科学)	0.34	0.42	—	平成13	同上	
地域文化専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(地域科学)	1.38	1.00	—	平成13	同上	
医学系研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成17	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医科学専攻 (博士課程)	4	47	—	188	博士(医学)	0.84	1.11	—	平成14	同上	
再生医科学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(再生医科学)	—	—	—	平成14	同上	平成31年度学生募集停止
看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(看護学)	1.00	1.00	—	平成17	同上	
医療者教育学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士(医療者教育学)	1.00	1.00	—	令和2	同上	
工学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	昭和42	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生産開発システム工学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度学生募集停止
電子情報システム工学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度学生募集停止
環境エネルギーシステム専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成11	同上	平成31年度学生募集停止
工学専攻 (博士課程)	3	23	—	69	博士(工学)	0.77	0.48	—	平成31	同上	
岐阜大学・イントロ科学大学 ハティ校国際連携統合機械工学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	0.83	0.50	—	平成31	同上	
岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	1.00	1.00	—	平成31	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
自然科学技術研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成29	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生命科学・化学専攻 (修士課程)	2	74	—	148	修士(工学または薬学)	1.48	1.50	—	平成29	同上	
生物生産環境科学専攻 (修士課程)	2	42	—	84	修士(応用生物学)	1.11	1.12	—	平成29	同上	
環境社会基盤工学専攻 (修士課程)	2	29	—	58	修士(工学)	0.95	0.76	—	平成29	同上	
物質・ものづくり工学専攻 (修士課程)	2	67	—	134	修士(工学)	1.24	1.30	—	平成29	同上	
知能理工学専攻 (修士課程)	2	81	—	162	修士(工学)	1.20	1.28	—	平成29	同上	
エネルギー工学専攻 (修士課程)	2	72	—	144	修士(工学)	1.21	1.13	—	平成29	同上	
岐阜大宇・イント工科大学クワ ハティ校国際連携食品科学技術専 攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士(食品科学技術)	0.20	0.10	—	平成31	同上	
共同獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成31	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
共同獣医学専攻 (博士課程)	4	6	—	24	博士(獣医学)	0.88	0.83	—	平成31年度	同上	
連合農学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成3	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生物生産科学専攻 (博士課程)	3	7	—	21	博士(農学)	0.81	0.71	—	平成3	同上	
生物環境科学専攻 (博士課程)	3	5	—	15	博士(農学)	0.53	0.40	—	平成3	同上	
生物資源科学専攻 (博士課程)	3	6	—	18	博士(農学)	1.57	1.67	—	平成3	同上	
岐阜大宇・イント工科大学クワ ハティ校国際連携食品科学技術専 攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	1.00	1.00	—	平成31	同上	
連合獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成2	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
獣医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(獣医学)	—	—	—	平成2	同上	平成31年度学生募集停止
連合創薬医療情報研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成19	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
創薬科学専攻 (博士課程)	3	3	—	9	博士(工学または薬学)	0.44	0.33	—	平成19	同上	
医療情報学専攻 (博士課程)	3	3	—	9	博士(医科学または薬学)	0.67	0.67	—	平成19	同上	
研究科合計											
修士課程	—	414	—	867	—	—	—	—	—	—	
博士課程	—	106	—	371	—	—	—	—	—	—	
専門職学位課程	—	40	—	65	—	—	—	—	—	—	

大学の名称	名古屋大学						学生募集停止学科数	7	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍		年度		
文学部	4	125	3年次10	520	学士(文学)	1.04	1.03	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人文学科	4	125	3年次10	520	学士(文学)	1.04	1.03	—	平成8	同上	
教育学部	4	65	3年次10	280	学士(教育学)	1.09	1.10	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士(教育学)	1.09	1.10	—	平成9	同上	
法学部	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.06	1.03	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.06	1.03	—	平成9	同上	
経済学部	4	205	3年次10	840	学士(経済学)	1.04	1.02	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
経済学科	4	140	—	560	学士(経済学)	—	—	—	昭和24	同上	
経営学科	4	65	—	260	学士(経済学)	—	—	—	昭和24	同上	
学部共通	—	—	3年次10	20	学士(経済学)	—	—	—	—	同上	
情報文化学部	4	—	—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	平成5	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
自然情報学科	4	—	—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	平成5	同上	
社会システム情報学科	4	—	—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	平成5	同上	
学部共通	—	—	3年次—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	—	同上	
情報学部	4	135	3年次10	560	学士(情報学)	1.04	1.08	—	平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1	
自然情報学科	4	38	3年次4	160	学士(情報学)	1.04	1.05	—	平成29	同上	
人間・社会情報学科	4	38	3年次4	160	学士(情報学)	0.99	1.02	—	平成29	同上	
コンピュータ科学科	4	59	3年次2	240	学士(情報学)	1.07	1.13	—	平成29	同上	
理学部	4	270	—	1,080	学士(理学)	1.06	1.03	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
数理学科	4	55	—	220	学士(理学)	—	—	—	平成7	同上	
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)	—	—	—	昭和24	同上	
化学科	4	50	—	200	学士(理学)	—	—	—	昭和24	同上	
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)	—	—	—	平成8	同上	
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)	—	—	—	平成4	同上	
医学部	4・6	307	2年次4	1,461	学士(医学)	1.02	1.03	令和4年度	昭和24	—	
					学士(看護学)						
					学士(保健学)						
					学士(リハビリテーション学)						
医学科	6	107	2年次4	661	学士(医学)	1.02	1.04	令和4年度	昭和24	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	令和4年度入学定員増(7人)、編入学定員変更(3年次5名→2年次4名)
保健学科	4	200	—	800	学士(看護学)	1.04	1.03	—	平成9	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
					学士(保健学)						
					学士(リハビリテーション学)						
工学部	4	680	—	2,720	学士(工学)	1.02	1.02	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成8	同上	平成29年度より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成9	同上	平成29年度より学生募集停止
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成7	同上	平成29年度より学生募集停止
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成6	同上	平成29年度より学生募集停止
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成8	同上	平成29年度より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	—	396	学士(工学)	1.02	1.00	—	平成29	同上	
物理工学科	4	83	—	332	学士(工学)	1.02	1.04	—	平成29	同上	
マテリアル工学科	4	110	—	440	学士(工学)	1.02	1.03	—	平成29	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍	倍		年度	
電気電子情報工学科	4	118	—	472	学士(工学)	1.00	1.00	—	平成29	同上
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	600	学士(工学)	1.01	1.00	—	平成29	同上
エネルギー理工学科	4	40	—	160	学士(工学)	1.04	1.05	—	平成29	同上
環境土木・建築学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.03	1.03	—	平成29	同上
農学部	4	170	—	680	学士(農学)	1.06	1.03	—	昭和26	愛知県名古屋市千種 区不老町1
生物環境科学科	4	35	—	140	学士(農学)	1.04	1.02	—	平成18	同上
資源生物科学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.05	1.05	—	平成18	同上
応用生命科学科	4	80	—	320	学士(農学)	1.08	1.02	—	平成18	同上
大学全体	—	2,107	3年次 50 2年次 4	8,761	—	—	—	—	—	—

大学の名称	名古屋大学大学院						学生募集停止学科数	32	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	8	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
文学研究科									昭和28 平成12	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止
人文学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(歴史学)	—	—	—			
人文学研究科									平成29 平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
人文学専攻 (博士前期課程)	2	104	—	208	修士(文学) 修士(歴史学) 修士(学術)	1.03	1.03	—			
(博士後期課程)	3	61	—	183	博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	0.57	0.31	—			
教育発達科学研究科									昭和28 平成12	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学) 修士(教育)	0.84	0.75	—			
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士(教育学) 博士(教育)	0.78	0.81	—			
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.88	0.81	—	平成12	同上	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.99	1.06	—			
法学研究科									昭和28 平成16	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	1.21	0.94	—			
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.58	0.52	—			
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.84	1.14	—	平成16	同上	
経済学研究科									昭和28 平成12	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学)	1.01	1.10	—			
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.46	0.53	—			
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	0.96	1.07	—	平成12	同上	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.09	0.00	—			
情報学研究科									平成29 平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	1.28	1.42	—			
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(情報学) 博士(学術)	0.75	1.50	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(情報学) 修士(学術)	1.17	1.16	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(情報学) 博士(学術)	0.58	0.75	—			
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(情報学) 修士(学術)	0.83	0.72	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(情報学) 博士(学術)	0.53	0.60	—			
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(情報学) 修士(学術)	0.89	0.93	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(情報学) 博士(学術)	0.75	0.85	—			

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(情報学)	1.03	1.00	—	平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	9	—	27	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.51	0.77	—			
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	58	修士(情報学)	1.56	1.37	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	10	—	30	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	1.76	1.00	—			
理学研究科											
素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	昭和28	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	平成7	同上	令和4年度より学生募集停止
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	平成7	同上	令和4年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	平成8	同上	令和4年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—			
理学専攻 (博士前期課程)	2	188	—	188	修士(理学)	0.97	0.97	—	令和4	同上	令和4年度より学生受入開始
(博士後期課程)	3	70	—	70	博士(理学)	0.57	0.57	—			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.16	0.00	—	平成28	同上	
医学系研究科											
総合医学専攻 (博士課程)	4	151	—	604	博士(医学)	1.10	0.99	—	昭和30 (平成14年度名称変更) 平成25	—	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.00	0.00	—	平成27	同上	
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.06	0.00	—	平成29	同上	
名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士(医学)	0.00	0.00	—	平成30	同上	
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	0.80	0.65	—	平成13	同上	
医療行政コース 総合保健学専攻 (博士前期課程)	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00	0.00	—	令和2	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	2	70	—	140	修士(看護学) 修士(医療技術学)	0.88	0.94	—			
(博士後期課程)	3	20	—	60	修士(リハビリテーション療法) 博士(看護学) 博士(医療技術学)	0.86	0.85	—			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(看護学)	—	—	—	平成14	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(看護学)	—	—	—			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(医療技術学)	—	—	—	平成14	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(医療技術学)	—	—	—			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(リハビリテーション療法学)	—	—	—	平成14	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(リハビリテーション療法学)	—	—	—			
工学研究科											
機械理工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	昭和28 平成16	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
社会基盤工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成16	同上	平成29年度より学生募集停止
結晶材料工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	昭和52 (平成16年 度再編)	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	0.99	1.02	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.78	0.62	—			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.05	0.97	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.74	0.62	—			
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(工学)	1.01	1.00	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(工学)	0.88	1.33	—			
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	1.08	1.02	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.55	0.44	—			
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.99	1.02	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.33	0.33	—			
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	0.98	1.05	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	22	博士(工学)	0.38	0.66	令和4年度			令和4年度入学定員減(△2人)
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(工学)	1.06	1.05	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	26	博士(工学)	0.93	0.37	令和4年度			令和4年度入学定員減(△1人)
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.24	1.35	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	22	博士(工学)	1.40	1.33	令和4年度			令和4年度入学定員減(△2人)
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.34	1.14	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.69	0.44	—			
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	1.17	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	13	—	39	博士(工学)	1.12	0.92	—			
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	66	修士(工学)	1.24	1.15	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.83	0.62	—			
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(工学)	1.30	1.21	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	14	—	42	博士(工学)	0.73	0.71	—			
マイクロ・ナノ機械 理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.36	1.36	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.95	1.12	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	76	修士(工学)	1.25	1.15	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.95	0.62	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.19	1.16	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(工学)	0.60	0.60	—			
総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.02	1.11	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(工学)	0.58	0.00	—			
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	0.98	0.91	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.77	0.22	—			
名古屋大学・チュラロンコン 大学国際連携サステイナブル 材料工学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.00	0.00	—	令和4	同上	令和4年度より学生受入開始
生命農学研究科											
生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	—	—	昭和30 (平成9年 度名称変 更)	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—	—	—	平成11	同上	平成30年度より学生募集停止

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
森林・環境資源科学専攻									平成30	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(農学)	1.16	1.07	—			
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(農学)	1.05	0.83	—			
植物生産科学専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(農学)	1.35	1.40	—			
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	0.96	0.33	—			
動物科学専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.07	1.07	—			
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(農学)	0.85	0.85	—			
応用生命科学専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	66	—	132	修士(農学)	1.12	1.12	—			
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士(農学)	0.56	0.50	—			
名古屋大学・カセサート大学 国際連携生命農学専攻									平成30	同上	
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(農学)	0.16	0.00	—			
名古屋大学・西オーストラリア 大学国際連携生命農学専攻									平成31	同上	
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(農学)	0.00	0.00	—			
国際開発研究科									平成3	愛知県名古屋市千種区不老町1	
国際開発専攻									平成3	同上	平成30年度より学生募集停止
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)	—	—	—			
国際協力専攻									平成4	同上	平成30年度より学生募集停止
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)	—	—	—			
国際コミュニケーション専攻									平成5	同上	平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
国際開発協力専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	44	—	88	修士(国際開発学)	1.11	1.27	—			
(博士後期課程)	3	22	—	66	博士(国際開発学)	0.59	0.50	—			
多元数理科学研究科									平成7	愛知県名古屋市千種区不老町1	
多元数理科学専攻									平成7	同上	
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.09	1.06	—			
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.49	0.43	—			
国際言語文化研究科									平成10	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
日本語文化専攻									平成10	同上	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学)	—	—	—			
国際多元文化専攻									平成10	同上	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
環境学研究科									平成13	愛知県名古屋市千種区不老町1	
地球環境科学専攻									平成13	同上	
(博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学)	0.91	0.92	—			
(博士後期課程)	3	24	—	72	修士(理学)	0.49	0.54	—			
都市環境学専攻									平成13	同上	
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学)	1.34	1.21	—			
(博士後期課程)	3	21	—	63	修士(工学)	0.39	0.42	—			
社会環境学専攻									平成13	同上	
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学)	0.85	0.96	—			
					修士(社会学)						
					修士(地理学)						
					修士(法学)						
					修士(経済学)						

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
情報科学研究科					博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.81	1.15	—	平成15	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
情報システム学専攻(博士前期課程)	3	13	—	39				—	平成15	同上	
(博士後期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	—	—	—	—	
メディア科学専攻(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成15	同上	
複雑系科学専攻(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成15	同上	
社会システム情報学専攻(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成15	同上	
創薬科学研究科									平成24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
基盤創薬学専攻(博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.12	1.15	—	平成24	同上	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	1.16	1.10	—	平成26	同上	
大学院全体		2,455		5,515							
博士前期課程		1,643		3,098		—	—	—	—	—	
博士後期課程		571		1,573		—	—	—	—	—	
博士課程		161		644		—	—	—	—	—	
修士課程		30		50		—	—	—	—	—	
専門職学位課程		50		150		—	—	—	—	—	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科及び別科を除く)。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

外国	教授相当	David Edwards 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	David Edwards 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	David Edwards 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	David Edwards 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	David Edwards 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)			
外国	准教授相当	Patrick Finnegan 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	准教授相当	Patrick Finnegan 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	准教授相当	Patrick Finnegan 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	准教授相当	Patrick Finnegan 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	准教授相当	Patrick Finnegan 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)			
外国	講師相当	Michael Renton 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB 自然科学テーマセッション・分析特論 サイエンス・レセプションセミナー アカデミックライティングワークショップ (研究指導)	外国	講師相当	Michael Renton 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB 自然科学テーマセッション・分析特論 サイエンス・レセプションセミナー アカデミックライティングワークショップ (研究指導)	外国	講師相当	Michael Renton 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB 自然科学テーマセッション・分析特論 サイエンス・レセプションセミナー アカデミックライティングワークショップ (研究指導)	外国	講師相当	Michael Renton 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB 自然科学テーマセッション・分析特論 サイエンス・レセプションセミナー アカデミックライティングワークショップ (研究指導)	外国	准教授相当	Michael Renton 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB 自然科学テーマセッション・分析特論 サイエンス・レセプションセミナー アカデミックライティングワークショップ (研究指導)	外国	講師相当	Michael Renton 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB 自然科学テーマセッション・分析特論 サイエンス・レセプションセミナー アカデミックライティングワークショップ (研究指導)
外国	教授相当	Jacqueline Batley 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	Jacqueline Batley 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	Jacqueline Batley 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	Jacqueline Batley 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	Jacqueline Batley 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)	外国	教授相当	Jacqueline Batley 博士論文研究ⅠB 博士論文研究ⅡB 博士論文研究ⅢB (研究指導)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は本字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

<名古屋大学>

【令和元年度】

- ・平成30年9月1日 高原照直助教が講師に昇格。
- ・平成31年1月1日 村瀬潤准教授が教授に昇格。
- ・平成31年3月31日 川北一人教授辞任。伊藤正樹准教授辞任。金丸京子講師辞任。富岡利恵助教辞任。
- ・平成31年4月1日 佐塚隆志准教授が教授に昇格。
- ・平成31年4月1日 千葉壮太郎准教授就任。谷川東子准教授就任。山本治樹助教就任。仲田麻奈助教就任。永井啓祐助教就任。徳田博美教授就任。
- ・平成31年4月1日 CAMAGNA Maurizio採用辞任に伴い、SKOULDING Nicola stephanie助教就任

【令和2年度】

- ・令和2年4月1日 飯田敦夫助教。森田真布助教。岩永青史准教授。呉迪助教。CAMAGNA Maurizio助教。就任。
- ・令和2年3月31日 小俣達男教授。松田洋一教授。定年退職。
- ・令和元年8月31日 安立昌篤講師辞任。
- ・令和2年1月31日 SKOULDING Nicola stephanie助教辞任。
- ・令和2年3月31日 松田幹教授。山田早人助教。辞任。
- ・令和元年6月1日 山本一清准教授が教授に昇格。野田口理孝助教が准教授に昇格。
- ・令和元年10月1日 佐藤ちひろ准教授が教授に昇格。
- ・令和2年1月1日 高橋宏和助教が准教授に昇格。
- ・令和2年3月16日 橋本(杉本)美海助教が講師に昇格。

【令和3年度】

- ・令和3年3月31日 竹中 千里教授、松岡 信教授、堀尾 文彦教授、服部 東穂教授、小林 哲夫教授定年退職
- ・令和3年3月31日 中崎 敦夫准教授、松尾 美幸講師、小林 美里講師辞任
- ・令和3年4月1日 西島 謙一教授、中道 範人教授、山内 卓樹准教授、大谷 仁志助教、浜島 りな助教就任【教員審査省略】
- ・令和3年4月1日 上口 美弥子准教授が教授に昇格、柴田 貴広准教授が教授に昇格、稲垣 哲也講師が准教授に昇格、三屋 史朗講師が准教授に昇格、DAMNJANOVIC Jasmina助教が講師に昇格【教員審査省略】
- ・令和3年6月1日 木村 真准教授が教授に昇格。
- ・令和3年6月1日 CARTAGENA Joyce Abad准教授が就任。
- ・令和3年6月30日 松下 泰幸准教授、森田真布助教辞任。
- ・令和3年8月1日 土岐 和多瑠助教が講師に昇格。
- ・令和3年11月1日 杉浦 大輔助教が講師に昇格。
- ・令和4年2月1日 中島 史恵助教就任【教員審査省略】
- ・令和4年3月1日 前田 一行助教、宮坂 忠親助教就任【教員審査省略】

【令和4年度】

- ・令和4年3月31日 肘井 直樹教授、山内 章教授、吉村 徹教授定年退職
- ・令和4年3月31日 三浦 健准教授、鈴木 孝幸准教授、岩崎 雄吾准教授、太田垣 駿吾講師、兒島 孝明講師辞任
- ・令和4年4月1日 辻 寛之教授、恒松 雄太准教授就任【教員審査省略】
- ・令和4年5月1日 邊見 久准教授が教授に昇格。

<西オーストラリア大学>

【令和元年度】

- ・Matthew Hipsey講師が准教授に昇格。
- ・Shane Maloney准教授が教授に昇格。
- ・Nicolas Taylor特別研究員相当が講師に昇格。
- ・Joshua Mylne講師が准教授に昇格。

【令和2年度】

- ・Megan Ryan准教授が教授に昇格。
- ・Jane Pillow准教授が教授に昇格。
- ・Martha Ludwig准教授が教授に昇格。

【令和3年度】

- ・Graeme Martin教授が退職
- ・Louise Barton講師が准教授に昇格
- ・Nik Callow講師が准教授に昇格

【令和4年度】

- ・Michael Renton講師が准教授に昇格。
- ・Theo Evans准教授が就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員（研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
40	45	17	23	125	0	40	41	14	24	119	0
40	45	17	23	125	0						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
125	0	0				119	0	0			
125	0	0									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
40	41	14	24	119	0	40	45	17	23	125	0
[-]	[Δ4]	[Δ3]	[1]	[Δ6]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
119	0	0				125	0	0			
[Δ6]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{119}{125} = \boxed{95.2} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{119} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(注)・本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	川北 一人	H31.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	H31.4.1名古屋大学理事就任のため就任辞退（元）						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
				必修	生命農学本論	①							
				必修	研究リテラシー	①							
2	准教授	伊藤 正樹	H31.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	H31.4.1他機関就職のため就任辞退（元）						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
3	講師	金丸 京子	H31.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	H31.4.1他機関就職のため就任辞退（元）						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
4	助教	富岡 利恵	H31.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	H31.3.31本学退職のため就任辞退（元）						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
				必修	生命農学基礎講義	①							
5	助教	CAMAGNA Maurizio	H31.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	H31.4.1付け採用辞退のため就任辞退（元）						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
5	人	必修	18	科目	必修	18	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	18	科目	計	18	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	講師	安立 昌篤	R1.8	必修	博士論文研究ⅠA	①	R1.9.1他機関就職のため辞任（2）
				必修	博士論文研究ⅡA	①	
				必修	博士論文研究ⅢA	①	
2	助教	SKOULDING Nicola stephanie	R2.1	必修	博士論文研究ⅠA	①	R2.2.1本学他研究科へ転任のため辞任（2）
				必修	博士論文研究ⅡA	①	
				必修	博士論文研究ⅢA	①	
3	教授	松田 幹	R2.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R2.4.1他機関就職のため辞任（2）
				必修	博士論文研究ⅡA	①	
				必修	博士論文研究ⅢA	①	
4	助教	山田 早人	R2.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R2.4.1他機関就職のため辞任（2）
				必修	博士論文研究ⅡA	①	
				必修	博士論文研究ⅢA	①	
5	准教授	中崎 敦夫	R3.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3.4.1他機関就職のため辞任（3）
				必修	博士論文研究ⅡA	①	
				必修	博士論文研究ⅢA	①	

6	講師	松尾 美幸	R3.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3.4.1他機関就職のため辞任(3)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
7	講師	小林 美里	R3.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3.4.1他機関就職のため辞任(3)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
8	准教授	松下 泰幸	R3.6	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3.6.30他機関就職のため辞任(4)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
9	助教	森田 真布	R3.6	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3.6.30本学他研究科へ転任のため辞任(4)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
10	准教授	三浦 健	R4.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4.3.31退職のため辞任(4)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
				必修	研究リテラシー	①							
11	准教授	鈴木 孝幸	R4.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4.4.1他機関就職のため辞任(4)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
12	准教授	岩崎 雄吾	R4.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4.4.1他機関就職のため辞任(4)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
13	講師	太田垣 駿吾	R4.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4.4.1他機関就職のため辞任(4)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
14	講師	児島 孝明	R4.3	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4.4.1他機関就職のため辞任(4)						
				必修	博士論文研究ⅡA	①							
				必修	博士論文研究ⅢA	①							
				必修	データサイエンス2	①							
合計(F)						後任補充状況の集計(G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)				①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)			
14	人	必修	44	科目	必修	44	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	44	科目	計	44	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)				後任補充状況の集計(E)+(G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
19	人	必修	62	科目	必修	62	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	62	科目	計	62	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{19}{125} = \boxed{15.2} \%$$

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

7 人

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	教授	小俣 達男	必修	博士論文研究ⅠA	①	R2. 3. 31付け65歳で定年退職 (2)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
2	教授	松田 洋一	必修	博士論文研究ⅠA	①	R2. 3. 31付け65歳で定年退職 (2)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
3	教授	竹中 千里	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3. 3. 31付け65歳で定年退職 (3)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
			必修	生命農学本論	①					
4	教授	松岡 信	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3. 3. 31付け65歳で定年退職 (3)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
5	教授	堀尾 文彦	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3. 3. 31付け65歳で定年退職 (3)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
6	教授	小林 哲夫	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3. 3. 31付け65歳で定年退職 (3)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
7	教授	服部 束穂	必修	博士論文研究ⅠA	①	R3. 3. 31付け65歳で定年退職 (3)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
8	教授	肘井 直樹	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4. 3. 31付け65歳で定年退職 (4)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
9	教授	山内 章	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4. 3. 31付け65歳で定年退職 (4)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
10	教授	吉村 徹	必修	博士論文研究ⅠA	①	R4. 3. 31付け65歳で定年退職 (4)				
			必修	博士論文研究ⅡA	①					
			必修	博士論文研究ⅢA	①					
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
10	人	必修	31	科目	必修	31	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	31	科目	計	31	科目	計	0	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

教育に支障がないように、それぞれ専任教員を配置しているため、学生への影響はない。また、ガイダンス及び個別指導により学生へ周知している。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (30年11月)	・協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。	遵守事項 申請書に記載された内容を反映した協定書について、平成30年12月3日に調印式を行い締結した。(30) その例とし、協定書内の ①3.1また3.2にて、プログラム名称及び本プログラムの目的を定義。また3.4で入学定員に言及。 ②3.7にてプログラム標準修学期間を明記。5.4では主・副大学の滞在期間を規定。 ③4.2にて両大学合同の入学審査を行う旨、また7.1-7.5において合同で論文審査を行う内容を規定。 ④5.2及び5.3で取得単位に関し詳述。 ⑤7.6にて両大学の共同学位記授与、また学位名称につき記載。 ⑥10.1にて合同の運営委員会の設立とその運営につき規定。 ⑦11.1でプログラムの質保証を担保する方策を明記。 上記内容を反映した。	履行済
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻＞

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 大学設置基準第51条2項に規定されている連携外国大学との「協議の場」について、実施状況(開催日・議題等)を記載してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合同委員会を設置している。 <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年9月6日にテレビ会議システムによって、西オーストラリア大学側からTim Colmer教授(UWA-JDPコーディネーター)、Imelda Whelehan教授(GRS(Graduate Research School)専攻長)、Gavin Fung教授(GRSコーディネーター)、Agi Gedeon博士(GRSマネージャー)が、名古屋大学側から中園幹生教授(国際連携生命農学専攻長)、Maurizio Camagna特任助教(コーディネーター)が参加して、委員会を開催した。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修記録の保存様式について ・ 学位予備審査、学位審査の審査方法、スケジュール・条件等について ・ その他 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>共同ウェビナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両大学の教員による研究紹介 ・ 専攻在籍学生による研究紹介・相手校での研究生生活の紹介 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Zoomを使ったウェビナーを実施し、両大学の教員による研究紹介を行った。また、当該専攻に在籍する両国の学生も研究成果の発表を行った。ウェビナーは当該研究科が実施するもう一つのジョイントディグリープログラムのパートナーであるカセサート大学とも連携して実施し、3大学以外からの参加も受付けた。ウェビナー後には進学を検討中の学生に対する情報提供を行なった。 <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合計で6回のウェビナーを開催し、毎回約10名の教員を含む40名程度の参加者があった。また、毎回数名の外部参加者を得た。 <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍において、ウェビナー形式の研究交流、学生の相互遠隔指導に新たな可能性を見出すことができた。今後もオンライン形式の研究交流、学生指導を有効に活用することとなった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

- a 実施の有無及び実施時期
 - ・ 無
- b 教員や学生への公開状況, 方法等

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・ 設定したアドミッションポリシーに沿って両大学共同で入学者を選考し、令和3年度は名古屋大学側を主大学とする学生3名、西オーストラリア大学側を主大学とする学生1名が在籍していた。2期生、3期生については入学生がいないが、これはコロナ禍の影響のためと考えられるので、収束後は設置の趣旨・目的を達成できると期待している。したがって、概ね当初の予定に沿って順当に運営されている。

② 自己点検・評価報告書

- a 公表(予定)時期
 - ・ 令和4年秋頃 公表予定
- b 公表方法
 - ・ 国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、6月末までに文部科学省あて提出。
 - ・ 報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和3年度に受審し認定を受けた。令和7年度以降の受審について検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和4年度)

- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

- b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2~3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。



名古屋大学
西オーストラリア大学
国際連携生命農学専攻
協定書

(本書は英文書類が正式版である。)

本協定書は2018年12月3日に

名古屋大学 - 愛知県名古屋市千種区不老町に主たるキャンパスをもつ国立大学法人-(以下「NU」)及び

西オーストラリア大学- 35 Stirling Highway, Perth, Western Australia 6009に主たるキャンパスをおき、The University of Western Australia Act 1911の規定をもって設立された法人(以下「UWA」) -

により締結されるものである。

1. 目的

NU及びUWA(以下「当事者」もしくは総称し「両当事者」)は数年間にわたり共同研究及び学生交流で良好な関係を築いてきている。両当事者は、NU(生命農学研究科)及びUWA(理学部)が共同で博士学位を授与するジョイントPhDプログラム(以下「プログラム」)の形態で相互関係を発展させることに合意した。本 JDPでは参加学生に望みうる最高の経験を提供し、連携大学と行うプログラムに参加することで共同研究を機能させるよう努めていくものである。本協定書の目的はそれを達成するためのJDPの枠組みを定めることにある。

2. 協定期間

2.1 本協定書はどちらか遅い方の署名が入った日に発効し、その日より5年間継続するものとする。

2.2 本協定書の各項は両当事者間の書面のやりとりにより修正することが可能である。

2.3 両当事者は本協定書の満了日より6ヶ月以上前に更新の期間及び条件を話し合い、本協定書の更新を行うものとする。

2.4 本協定書は一方当事者が6ヶ月の猶予を持って他方当事者に書面にて事前通知を行った場合に解除することができる。本協定書解除の場合は、両当事者間で他の申し合わせがない限り、最後の学生が学位を取得するまで、全ての学生同意書(Candidature Agreement)が有効であるとする事で両者合意している。

3. ジョイントPhDプログラム

3.1 本プログラムは「名古屋大学西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻」という具体名称がNUでは与えられる。

3.2 本プログラムの目的とするところは、仮説の構築や実験での科学的手法、専門知識また技術に関する教育を受け、論理的かつ批判的思考を持ち、科学的なコミュニケーション手段と倫理観を持つ人材を養成するところにある。参加学生はグローバルに活躍する科学者となるべく、広い視野そして社会的かつ道徳的責任感を持ち、将来クオリティフード及びファイバー製品の

ための農業システム改善、新規バイオテクノロジープロセスの展開、環境衛生また農業生態系の保全に関する改善に貢献できる力をつけることを目指す。

- 3.3 **主大学**とは学生が最初に本プログラムの願書を出し、当該学生の研究を機能させる主たる責任を負う大学を指し;他方大学を**副大学**とみなす。
- 3.4 各大学から少なくとも年1名ずつの学生が本プログラムに入学することを見込んでいる。大学ごとの参加学生数は各年完全に一致させる必要はない。しかし5年のスパンで、上記学生数を基に不均衡がみられる場合、両当事者は解決に向けて最大の努力をなし、友好的な解決策を探るものとする。
- 3.5 両当事者により規定される入学資格を満たした本プログラム参加学生は、両大学で学生資格が認められるものとする。
- 3.6 各学生は本プログラムを通し主大学においてのみ所要の授業料、入学料及び検定料を支払うものとする。副大学でのこれらの費用は、2015年締結の大学間学術交流協定に基づき免除となる。副大学に支払う必要のある費用についての詳細は学生同意書に記載される。
- 3.7 本プログラムへの参加は毎年4月開始とする。本プログラムは、各学生同意書への署名日から通常3年(フルタイム)相当とする。この期間から逸脱する場合は学生同意書内に明記する。
- 3.8 各学生は、両当事者により指名承認された適切な教員による共同指導を受け研究を行うことになり、各自学生同意書に記載される全学術要件を満たすことが求められる。
- 3.9 本プログラムの共通言語は英語である。学生はコミュニケーション、レポート作成、セミナー及び口頭試問参加並びに論文作成を英語で行うこととする。
- 3.10 副大学滞在は原則2年次の1年間である。副大学での滞在は研究内容により、12ヶ月以上18ヶ月以内とする。本期間及び時期は、各学生同意書に詳述される研究計画と、両当事者の国で規定された全教育関連法令への合致をもって決定することとする。

4. 入学審査及び入学登録

- 4.1 入学審査及び入学の手続きは基本的に主大学が管理する。適時に志願者情報を副大学に提示する。
- 4.2 両当事者は書類審査及び面接による入学審査要領で合意しており、書類審査では各当事者が通常の博士課程志願者に求める内容と資格を審査する。さらに、学生の審査においては、独自の研究を通じて知識を追究することへの興味、農学及び関連分野の基本的知識、多様な状況で目的を達成する柔軟性、本プログラムに参加することへの熱意、そして明確な将来像を持つ

者を評価することで、両当事者間合意している。

- 4.3 本プログラムの入学審査プロセスはNU生命農学研究科関連専攻長、UWA理学部の関連グラジュエートリサーチコーディネーター(GRC)、両当事者の指導教員を含む合同入試委員会により行われる。その委員会での決定にはNU 教授会及びUWA大学院(GRS)長の承認が必要である。
- 4.4 入試委員会のメンバーが対面による面接のための移動ができない場合はテレビ会議を代用とする。
- 4.5 本プログラムに入学する学生はその参加期間を通し両大学に登録されるものとし、したがって各大学が通常の学生に提供するものと同様の施設利用及びサービス受益の権利を得る。しかしながら、本協定書により両当事者に生じる責任は学生本人に限られ、配偶者及び扶養家族にまで及ぶものではない。
- 4.6 本プログラムへの入学者ごとに作成される学生同意書は、対象の学生、NU生命農学研究科長、UWA GRS長、全指導教員により入学時に署名されるものとする。

5. カリキュラム及び単位

- 5.1 両当事者は本プログラムを通し適切な研究及び学びの機会を与えるような性質をもつカリキュラムを提供することに合意し、本プログラムの修了のために少なくとも24単位を取得するよう設計している。
- 5.2 学生は計画された研究を行うことで年次6単位を取得することができる。各学生の研究進捗はアニュアルレポート(西オーストラリア大学の既存課程で提出が求められている年次研究進捗報告書)にて精査され、合計18単位の付与となる。その他6単位は5.3項に従い付与される。学生は自身の行う独自の研究を元に博士論文を準備し、上記3.7及び3.10に説明される通常ケースでは、各当事者に提出することとする。その他の単位に関するケースは、学生からの書面による要請があり次第、両当事者間で話し合いを行うこととする。
- 5.3 上記5.2項の内容に加え、学生は集中講義、セミナー、ワークショップからなるユニット受講で少なくとも6単位取得することが求められる。学生は各大学が提供する一覧から講義を選択することができるが、両当事者の指導教員の合意を必要とする。
- 5.4 各学生は少なくとも全単位数のうちの2分の1を主大学、3分の1を副大学で取得する条件に従うことが求められる。
- 5.5 単位の取得を問わず、学生は各大学にて研究倫理に関する講座を、講義又はオンライン教材にて受講しなくてはならない。

- 5.6 学生は各セメスター又は学年終了時に主大学よりアニュアルレポートの確認書 (Acknowledgement)を受領する。いずれかの当事者が成績をつけた場合は必ず他方当事者にその写しを提供するものとする。

6. 指導体制

- 6.1 両当事者は各学生に対し適切な指導教員を指名し、その指導教員の指名は両当事者の話し合い及び相互合意に基づき行われる。
- 6.2 各大学から少なくとも各2名の指導教員が担当する学生の指導及び助言を協働で行う。指導教員は定期的に、対面もしくはインターネットを用い、学生との学術及び研究進捗に関する話し合いの場を持つ。また、学生及び指導教員は6ヶ月ごとに面談し、当該学生の研究進捗状況をNU教授会、UWA GRS、もしくは後述の両当事者による合同運営委員会に正式に報告する。

7. 論文審査、学位授与及び修了

- 7.1 学生は自身の独自の研究を基に英語で博士論文1本を作成し、いずれが主大学かにより英語及び/又は日本語にて作成された要旨を添えて提出する。その博士論文は、両当事者名での博士号(PhD)学位授与にむけた評価を受けることとなる。
- 7.2 提出された博士論文に関し、主大学にて予備審査1回、口頭試問1回を行う。両当事者は対象となる大学規則に沿うよう各段階の審査員を指名するものとする。審査員が対面審査のために移動できない場合は、テレビ会議を適切な代案とする。
- 7.2.1 予備審査は基本主大学にて公開で行われる。副大学の代表者はTV会議システムにて参加する。TV会議システムでの参加が不可能な場合は、当該参加学生が準備するプレゼンテーション資料を事前に副大学側に送付し、アドバイスを受けるものとする。
- 7.2.2 最終口頭試問はNUもしくはUWAのどちらかで行われる。各当事者の代表者が、対面もしくはTV会議により参加する機会が与えられる。
- 7.3 提出された博士論文の審査は最終口頭試問以前に2名の外部審査員及びその他内部審査員により行われるものとする。
- 7.4 審査員によるフィードバックを取り入れ修正した最終的な博士論文は指導教員の承認後、UWAの関連GRC、GRS、NU生命農学研究科教授会により共同PhD学位の授与の承認を受けなければならない。
- 7.5 審査員から異なる助言を得た場合、両大学の各関連部門の長が該当学生のために解決策を模索することとする。一方当事者が共同学位の授与を拒否する事態においては、他方当事者の

自身の裁量による単一学位授与が可能となる。

7.6 両当事者は修了前にそれぞれの代表者の署名を添えた共同学位記の発行を協力して行うものとする。本プログラムを成功裏に修了した際に両当事者により授与される英語での学位名称は Doctor of Philosophyであり、NUで規定された名称とともに、準備される学位記に記載される。

7.7 共同PhD学位を贈られる学生は主大学にて行われる卒業式に参列することができる。学生は両大学の卒業生として名簿登録される。

8. 転専攻

本プログラムからの転籍を希望する場合、当該学生は両当事者の承認を得た後、主大学の通常プログラムの学生となることができる。学生が通常プログラムから本プログラムに転籍を希望する逆の場合では、そういった要請があるたびに後述の運営委員会で話し合い、本プログラムのための、4項に記載される、各大学の承認及び/又は入学プロセスを踏むこととする。

9. 知的財産

9.1 各当事者が所有する知的財産権に関する必要事項は学生ごと別途同意書に記載することとする。そのような合意書は本プログラムを開始する以前に結ばなければならない。

9.2 学生同意書に別途記載のない限り、学生により開発された知的財産はいかなるものも当該学生に所有権があるものとする。

10. マネージメント及び管理体制

10.1 両当事者は本協定書に基づきプログラムを実施するために合同運営委員会を設立することとする。その委員会には少なくとも、各大学から窓口となる教員、NU研究科長、UWA GRS長を含めることとし、その合同運営委員会では以下の機能を持つ。

10.1.1 委員会は本プログラムの運営に関し、質保証及びコンプライアンスマネージメントも含めた目配りを行う。

10.1.2 委員会は学生の進捗及び成績をモニターし、また学生からのフィードバックを受ける。

10.1.3 委員会は本プログラムに従事する学生及び教職員が危機管理を効果的に行えるよう、またその過程が機能するよう協力する。

10.1.4 委員会は各マイルストーンごとに本プログラムの運営記録を残す。

10.1.5 委員会は、少なくとも年に一度、本プログラムの品質を総括するミーティングを対面もしくはテレビ会議で行うものとする。

10.2 本プログラムでは、プログラムの窓口となる教員を少なくとも1名、それぞれの大学にて任命しなくてはならない。

10.2.1 窓口となる教員は本プログラム全体の調整を行うこととする。

10.2.2 いかなる学生からの苦情も本教員が誠意を持って対処し、最終的には合同運営委員会に報告を行っていくものとする。

10.3 主大学側は各学生の全体管理をする責任を負い、他方当事者に当該学生の学術的/事務的記録を提供する。

10.3.1 両当事者は両国にある個人情報保護法又はその他関連法に従う義務を認識している。しかしながら本プログラムの性質上、事務手続きにおいて両当事者間で学生の個人情報を共有する必要性がある。主大学では最初の段階で個人情報を副大学に提供することへの同意を学生から得る必要がある。

10.4 両当事者は全ての公式学術関連規則を相互に提供しあうものとする。本プログラム及び/又は学生に影響を与える規則に何らかの変更があった場合、両当事者はできる限り早急に他方当事者に通知、本協定書へ必要な修正を行う義務がある。万が一、上記変更により何らかの問題が発生した場合は、両当事者でもって良的解決策を見つけるよう努めることとする。

10.5 副大学は本プログラムのための適切なビザ、保険及び住居に関する必要な情報をどう入手するか、アドバイスをを行う。

10.6 学生は各大学での全ての関連規則、実施規則、手続き、滞在国での法規の適用対象となる。これらを固守することへの同意は、学生が本プログラムに入学する際に確認する。

10.7 学生の本プログラムへの入学状況は、必要に応じ、両当事者の学生統計に含める。

11. 品質保証

11.1 両当事者は、5年おきに第三者による公平な評価で、プログラムの質の認定及び本協定書で定める子細に従った運営を諮ることを合意している。

11.2 本プログラムの水準を確かなものとするために何らかの手段を講じなくてはならない場合は、本プログラムの参加学生に不利益を生じさせないよう両当事者が最大限の努力を払うものとする。

12. プロモーション及びマーケティング

各当事者は本協定書に基づく調整内容を、自費により、各自マーケティングネットワークを通じ、プロモーション、マーケティング、宣伝する責任を持つ。当事者の名称及び/又はロゴを使用する際は必ず他方当事者の書面による事前承認を得る。

13. 費用

両当事者間の費用負担は大学間協定に従い決定する。口頭試問で外部審査委員をよぶ費用はその規程を持つ大学側にて負うものとする。

14. 不可抗力

自然災害その他同様の原因を含み、またこれに限らず、当事者の合理的支配を超える事由の発生により、本プログラムの運営が不可能な状態となった場合、いずれの当事者も主大学となる学生の研究の機会を確保するよう責任を持つものとする。

15. 紛争解決

本書の解釈又は実行に関する相違は協議により解決するものであると、両当事者間で申し合わせる。

16. 追加資料及び真正性

16.1 本協定書の条件に関し、ここに定めなき事項は両当事者間で合意し学生同意書で書面化するものとする。本プログラムに関係するその他書面は両当事者で共有し保管する。

16.2 本協定書は、名古屋大学総長、西オーストラリア大学副学長及び両大学のその他代表者に署名せしめた英文書が正式版である。正本は各当事者が保有する。

上記の証として、本協定当事者は署名をここに行う:

名古屋大学

西オーストラリア大学

名前 松尾 清一
総長

日付: _____

名前 Dawn Freshwater
Vice-Chancellor

日付: _____

名前 川北 一人
生命農学研究科長

日付: _____

名前 Tony O'Donnell
Executive Dean, Faculty of Science

日付: _____